

# 第1回 伏見区基本計画策定委員会 摘録

日時：平成21年10月6日（火）

午前10時～12時25分

場所：深草総合庁舎4階第3会議室

## 1 開会、挨拶

区長：伏見区基本計画策定委員会は平成23年度から今後10年間の、伏見区のまちづくりの羅針盤となる基本計画の策定に向けて審議いただくために設置した。区民と行政が共汗、協働でまちづくりを進められるよう、区民の皆様方にわかりやすい計画にさせていただきたいと考えている。

市と区の基本計画は区の発展を支える車の両輪となる。伏見区は28万3,000人の人口を有し、7つの市町と隣接する大規模な区のため課題も多い。計画策定にはご苦勞をおかけすると思うが、なにとぞよろしくお願ひしたい。

## 2 委嘱状交付

## 3 委員紹介

## 4 座長の承認、座長挨拶

- ・伏見区基本計画策定委員会設置要綱第4条第2項により、座長を承認

座長：前回の基本計画から早くも10年が経とうとしている。環境、とくに水と緑について課題を抱える伏見区だが、前回の計画を策定する際に、委員の1人である大学生が環境をアピールすべきだと主張し計画のなかに盛り込まれた。今回の計画でも委員の皆さんからぜひ強いメッセージを提言していただきたい。

昨日、市全体の基本計画審議会の第1回総会が開催された。市全体の基本計画と区の計画はお互い補完し合うものになる。「共汗」のテーマの下、伏見区でも徹底した区民参加・徹底した職員の参加により、地域のまちづくりを支援していきたい。「徹底的に」とは、「貫き通すこと」と「あまねく、広く」という両方の意味合いがある。区民参加で今回の基本計画を策定することを、広く区民の方に理解していただくことも目指して、未来の10年間を一緒に考えていきたい。

- ・伏見区基本計画策定委員会設置要綱第8条により、相談役を承認

## 5 議題

(1) 伏見区基本計画の策定方針について（事務局より資料3、4の説明）

- ・事務局より資料3、4の説明→委員からとくに意見なし、事務局案どおり承認

## 6 報告等

(1) 平成20年度伏見区住民円卓会議について

- ・事務局より資料5、6の説明

座長：各地域の円卓会議の座長にも委員に就任していただいているが、それぞれの円卓会議の様子や、ご意見等をうかがいたい。

委員：淀では、現在京阪淀駅の高架事業が進められている。完成すればまちは活気づくのではないかと考える。

委員：醍醐地域は山が多く、史跡、名跡も多い。コミュニティバスにも乗ってもらい、子どもたちに地域のことをできるだけ知ってもらいたいと考えている。地域の資源や環境を維持するため、まちの美化に取り組んでいる。そうした取組を踏まえて地域のつながり、絆を深めていきたい。

委員：久我・羽束師は、交通、道路、河川といろいろな課題を抱えているが、急激な人口増がいちばんの問題だ。新住民と旧住民の話し合いも必要になる。こうした問題をどうやって解決していけばいいのか。環境問題に対しても取り組んでいる最中だが、皆さん方からいろいろ教えていただきたい。

委員：深草地域ではワークショップをして、深草の良い点、悪い点について話し合った。自然環

境では、大岩山の環境問題について深草支所を中心に清掃活動に取り組んでいる。区民参加そのものが今回の計画策定にとって意義のあることだ。区民が安全で安心なまちづくりにどう参加していけるかという意識づくりをやっていきたい。

委員：旧伏見地域は、社寺仏閣、伏見の酒を併せて世界に観光地として売り出していき、今後ますますこれを進めていきたいと考えている。

委員：向島は京都市のいちばん南の玄関口であり、新旧住民が混在しておりそれぞれ意識が違う。向島ニュータウンには、言葉の問題等で受け込めない中国人社会ができています。住民間でどうコミュニケーションを取っていくのかという課題がある。  
巨椋池干拓地の位置づけがはっきりしない。農地を利用し農産物による振興を進めるなど、もっとPRして活用すべきだと考えている。  
陸の孤島といわれるように、公共交通機関の充実が必要だ。

座長：各地域の抱える課題、今後伸ばしたい点を確認していただけたと思う。第2回委員会の開催後に、新たに円卓会議を行い、地域別計画の協議に入る。

委員：この円卓会議のなかで商業に関するテーマが出ていないのと、各ブロックには事情の異なる地域が含まれているのに同じテーマが挙がっているのは違和感がある。コンパクトにまとめすぎている感があるので、円卓会議の年齢構成や男女構成について知りたい。

事務局：円卓会議には各種団体の役職の方などその地域の実情をよく知っている方をお願いしている。全ブロックで計150人、延べ230人以上の参加人数があった。  
円卓会議の内容についてニュースレターを作成し、インターネットのホームページや区役所等の窓口で公表しているので、もう少し詳細な中身についても資料として提出したい。

委員：若い人の意見が盛り込まれているかどうか知りたい。

座長：年齢構成については次回報告していただく。

## (2) 現行伏見区基本計画の点検・総括について

・事務局より資料7の説明

座長：現行計画の取組状況に関するご意見等があれば、後ほど意見交換の時間に併せて頂戴したい。

## (3) ゲストスピーチ 「伏見楽舎」事務局長

私たちのような市民活動が、今後の10年計画のなかで取り組まれていく必要があるのではないかと自分自身が確認をしながらお話を拝聴した。

私が理事長をしていた伏見大手筋商店街振興組合では、21世紀は環境と人権の時代と捉え、地球温暖化防止の実践として、また活性化の自助努力の一つとして、商店街のアーケードをつくり替える際に、ソーラーパネルを貼ったアーケードを建設した(平成9年完成)。全店舗の協力による500万円の拠出金でつくられ、現在も世界に一つだけだ。完成記念事業として行った市民対象の「伏見史跡探訪会」が好評を得て(全12回開催)、その後平成16年にも商店街の賑わい創出事業として全6回開催した。

これらの活動を契機に探訪会に関わった有志が集まり、江戸時代初期の伏見学校にならった伏見楽舎を設立した(平成19年)。会員自身が学びながら、伏見の自然や文化を若い世代に伝え、地域の活性化を目指して活動している。事業へは親子参加を原則としている。

周知方法としては、伏見区の全小学校へのチラシ配布をし、区役所等関係機関にも周知協力を依頼している。

事業としては、文化講演会や、間伐材を利用した巣箱づくり、日本一のツバメのねぐら観察、京セラビルから五山の送り火観賞、聖母短大の和室で茶道の体験、桃山城の石垣前で琴の鑑賞会、教育大学の先生のご指導による親子でテッポウユリの増殖法を学ぶなどの事業を行った。

今後は、世界天文年に因み親子で望遠鏡づくり、洛南の世界遺産の探訪会などを計画している。現在、関係機関の一部に相談をもちかけている段階だが、水垂の埋立地で環境の森づくりの市民運動を展開しようといったことも考えている。

## 7 意見交換

座長：委員の皆様から、こういうことを計画のなかに盛り込んでいきたいといったご意見を順番に頂戴したい。

- 委員 : 28万人の区民全員が自分の基本計画だと思うということであれば、安心安全が一つのキーワードになるだろう。とくに大規模な自然災害が起こった場合にどうするのかも今回テーマになると考える。  
伏見稲荷大社は大変有名だが、現計画に出てきていないのは不思議だ。
- 委員 : 伏見は昭和初期の計画で地理、環境が異なった多様な地域が粘着されたことで、まさに困難性があるところだと感じている。  
私にとっての伏見はまさしく旧伏見地域で、他の地域のことを統括的に理解できていないと思う。みんなが共通認識をもてるよう、この委員会の場で円卓会議の座長さんにお話いただくなどして、全部の意見を丁寧に汲み上げていけるようにしていただきたい。
- 委員 : 各円卓会議からも自治会の加入促進という意見が出ているが、マンションの住人は自治会活動に参加されない人が多く、いちばんの課題となっている。また、最近、地域で消火器がいたずらされることが増えている。いろいろなことが安心安全なまちづくりに影響してくると感じている。
- 委員 : 商店街と地域のことをどう絡ませていくのか、醍醐、深草、桃山といった地域をどのようにつないでいくのか、非常に興味があり、また大変なことだと感じている。
- 委員 : 以前と比べると観光客が増えているのは実感している。一つの伏見の強みになっていくのではないか。
- 委員 : 伏見だけでなく京都市域全体を見ても交通問題は大きな課題だと考える。私は、審議会等で路面電車を復活してはどうかと提唱している。  
基本計画はどこまで進んだかが住民にもわかるようにしていただき、住民も権利ばかり主張するのではなく、自ら取り組むことが必要だ。醍醐コミュニティバスは、何もないところから、今50数社の企業や色々な方の協力で運営している。伏見区の各種団体が横のつながりをもって、協力し合えば伏見に住んでよかったというまちづくりができるのではないか。
- 委員 : 久我・羽束師地域は伏見区の中心地と比較すると大きな格差がある。30年は遅れている。様々な課題の解決のため、毎月1回会議を開いているが、そもそも会議をする皆が集まる場所がない。安心安全の面でも、約2,000人の小・中学生の通学路が1本しかなく、農道を通らざるをえない状況である。また、避難する場所もない。そうした課題をどうするのか、今まちづくりに専念している。
- 委員 : 各学区の運動会を回ると、参加者のほとんどは高齢者で若い人があまりいない。稲荷学区では子どもたちの下校時にパトロールをしても子どもに会わない。高齢化が進行している地域と若い世代が多い地域もいろいろあるなかで、基本計画の策定というのは大変だと感じている。
- 委員 : 大岩山の不法投棄の一斉清掃を3年前から行っている。役所の方、農協、京都教育大学、龍谷大学、伏見工業高校の生徒たちの協力も得てきれいになってきた。深草地域としてこの活動を続け、ゴミを捨てないような環境にするよう話し合っている。
- 委員 : 醍醐地域でPTA活動を中心に自分でできることから活動してきた。地域の方の意見を吸い上げて委員会で報告させていただき、また地域にフィードバックする役目ができると思っている。
- 委員 : 今は木津川市に住んでいるので、第三者的な立場から見ると、歴史や水や環境など、何かシンボリックなものを一つ打ち上げられると良いと思う。伏見稲荷大社の話がでていたが、稲荷山も非常に整備されてきたのでかなり活用ができるのではないか。
- 委員 : 伏見力を活かすために、産業、農業、観光に商業も加えたい。まちの活力として雇用が創出される場というのは非常に大事ではないかと考える。
- 委員 : 地域で福祉マップを作成しているが、活動の参加者は高齢者ばかりである。若い人が出てこられるような仕組みづくりをどうしたらいいのかという問題がある。  
地域で安心安全をテーマに活動を進めることが安心安全ネットワークの形成につながると考える。ネットワークの取組は持続することが大切だが、小学校のPTAなど持続的な組織と地域の各団体が連携してやっていくことでできるのではないかと思う。

- 委員： 高度集積地区整備推進協議会の委員も務めている関係で思うのは、伏見は東西の交通インフラの整備ができていない。高速道路ができてても地元の間人は利用しないので景色が悪くなっただけだと感じている。  
藤森駅の高速道路下は以前ゴミが放置されて汚かったが、最近はベンチが置かれて花が飾られるほどきれいになった。そうした活動を伏見区内に広げ、きれいなまち、風景のあるまちにしていきたい。
- 委員： この10年で醍醐のコミュニティバスもでき、大岩山のゴミもきれいになったように、夢をもって取り組んでいくべきだ。近頃の子どもたちは行き場がない。体を動かして発散できるような、自然が身近に感じられるものがあるとよい。
- 委員： 単独でいろいろ計画を立ててもなかなか推進できない。私たち伏見区社会福祉協議会では、24年度末までの地域福祉活動計画を進めている。そのような計画と伏見区基本計画とをお互いに関係性をもたせながら進めていくことが大切だ。
- 委員： この10年間、若い人たちがまちづくりに参加する機会があったのか、人づくりができていないことが気になる。観光に関しては、駐車場や観光案内板が不足している問題など主に行政がやることで改善されていない。民と官のパートナーシップというなら、新しい基本計画をつくるうえでどう具体的にパートナーシップをやっていくのかまで突っ込んで議論したい。  
15年ぐらい前、十石船をつくる前に、自分の商売にはメリットはないが、ドブ川だった川を休みの日を使ってドブ川掃除をした。自分の商売という「点」でなく「面」で見えて取り組むことが積み重なると、行政も動くし、同じ志をもつ者の広がりも出てくる。どれだけ志をパブリックにもてるかで、まちづくりの成否が決まるのではないか。まちづくりについてブレインストーミングする場がもっと必要だと感じている。
- 委員： この委員会がガス抜き委員会にならないよう、前向きの考えで取り組みたい。
- 委員： 京都市のなかでも伏見区は外国籍の人口が最も多い区である。京都市の国際化推進プランで「多文化共生」をキーワードにしているが、伏見もさまざまな文化背景のある人たちが一緒に暮らせるように取り組んでもらいたい。  
醍醐の団地や向島ニュータウンもすでに30年以上経った。ニュータウン政策を総括してもう一度見直す時期がきていると考える。向島では旧地区とニュータウンが分断されている。  
ゲストスピーチで環境の森づくりのお話があったが、今回はぜひそのような取組をしてほしい。
- 委員： NPO法人としてシニアのITサポートや、子育てが終わった女性たちの支援をする活動を20年ほど伏見で続けている。各ボランティア団体やNPO法人、町内で役をもっている方たちのITのお手伝いできればと思っている。  
私もシニアの方は元気だが、若い人がなかなか入ってこないと感じている。女性と若い人がまちづくりの会に出られるような仕組みを考えてほしい。
- 委員： ニュータウンでは急激に高齢化が進み、老々介護で孤独死とか、ゴミ屋敷の問題などが頻繁に起こっている。解決のために安心安全ネットワークをつくり、月に1回会議をしているが、縦割り行政などのためになかなか解決しない。10年間の基本計画も大事だが、そのような緊急の課題についての解決法もこの場でいい意見が出ればと考える。  
マンションの住民が自治会に入らないのも、自治会の役割が住民ニーズと直結していないからではないか。自治会のあり方を見直すべきだ。イベント等で求心力をつけ、気持ちを一つにすることで住民の抱えている問題に対処していく視点も必要だ。
- 委員： 管理栄養士として宇治市をフィールドに食育に取り組んでいるが、自分が住んでいる伏見区で、住民の目線で、行政と協働して地域計画をつくるのに何かできるのではないかと考えている。
- 委員： 政府が二酸化炭素排出量を25%削減すると発表したように、実践するときの数値目標があると市民にもわかりやすいし、行動できる。そのような数値目標を計画のなかに入れてほしい。  
市内でエコのための具体的な行動をみんなが共有するコミュニティをつくる活動を進めている。若い人も入ることにより、みんなが訪問し合い、高齢者の孤独死なども避けられるのではないかと考えている。そのようなまちづくりが伏見でできればいい。

座長 : 座長として次回に向け二点お願いしたい。一点目は、10年間という時間を意識して、現在緊急に対処しなければいけない課題と、10年後はこんな伏見区になってほしいという姿をイメージして、それに向けて努力すべきことは何かということについてご意見を頂戴したい。夢のある部分と解決すべき課題とを十分考えたい。

二点目は、伏見ならではの区民と行政との連携の仕方、「共汗」の仕方について、どんな仕組みで、どうすべきか。伏見らしい「伏見モデル」をつくっていくためのご提案をいただきたい。

## 8 閉会